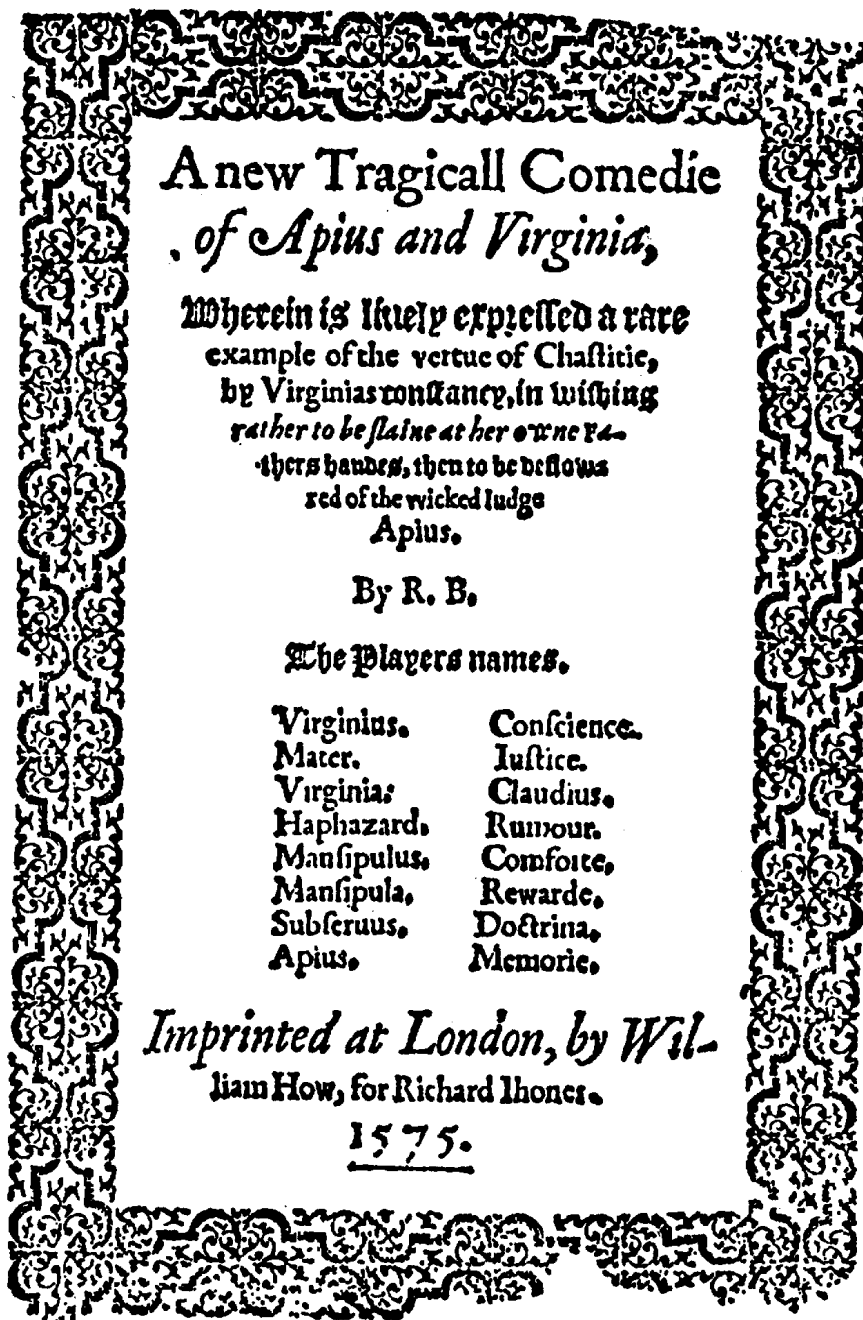


## 『アピアスとヴァージニア』

酒 井 正 志  
酒 井 洋 子



## 新作悲喜劇

## 『アピアスとヴァージニア』

悪しき法官アピアスによって凌辱されるよりは  
 父親の手で殺されることを望んだ  
 ヴァージニアの貞節による  
 純潔の徳の稀なる手本が  
 生き生きと描かれる

R. B. 作

## 登場人物名

ヴァージニアス	良心
母親	正義
ヴァージニア	クローディアス
ハプハザード (でたらめ)	噂
マンシパラス	慰め
マンシパラ	報い
サブサーヴァス	教訓
アピアス	記憶

リチャード・ジョーンズのためウィリアム・ハウ  
 ロンドンにて印刷

1575年

## 前口上

天上のいと高き御座に上らんとする者よ、  
 権力と虚偽とを避けるべし。  
 地上にありては権力も蛮勇も役に立たず、  
 天上へと汝を導くはただ神への全き信頼のみ。  
 地上にあって女神ミネルヴァのごとくなりたしと願う乙女よ、  
 ヴァージニアに倣いて生きるよう努めるべし。  
 悲嘆にくれる者よ、運命の三女神が命の糸を断たんとする時、  
 大いなる喜びを得ん。  
 「今、まさに死せんとする乙女よ、いざ墓へ来たれ。」  
 乙女はかく語り、死にてその顔<sup>かんぱせ</sup>を蒼白にす。

名声のラッパを大空に鳴り響かせようとする者、  
 あるいは全能の神ジョウヴの座す聖なる館に赴こうとする者は、  
 偽りの心によらず、ましてや強大な力によらず、  
 信仰と清い生活とによって、その目的を果たさねばなりません。  
 そして地上において汚れなき乙女の生活を喜んで送ろうとする人誰にも、  
 ヴァージニアを襲った激流の数々を考えて欲しいのです、  
 彼女の悲嘆と痛ましい死を、そして死に際しての喜びをも。  
 「汚れなき乙女たちよ、私と共に墓へ来たれ」と、最後の息の下で、彼女は  
 語りました。

この悲劇を聞こうとお集まりの諸卿よ、  
 ここにいかなる熱情と愛情とがあらわれるかをとくと御覧ください。  
 そして結婚の絆で永遠に結ばれている御婦人がたよ、  
 今ここで御覧になる生き方に倣ってください。そうすればその名声は決して  
 朽ちることはないでしょう。

乙女たちよ、麗しき御婦人がたよ、あなたがたの名誉のために、  
 ここに明らかにされる人生を送り、不滅の名声を勝ち得てください。  
 詩人たちが「盲目の」と呼んでいる愛の神や  
 情欲のヴィーナスや災いの元凶である好色家どもに

あなたがた乙女の名を汚させてはなりません。御婦人がたよ、  
ヴァージニアが守った生き方をしてください。彼女は貞節を汚されるより  
は、

父親の短剣で命を絶たれるほうを選んだのです。

宮廷の御婦人がたよ、ヴァージニアが嘆いたごとく、ヴァージニアがいな  
いことを嘆いて下さい。

これを手本にそうした大いなる苦難を避けようとする人がいるのなら

我々の作者は大いに喜び、我々もまた心躍らせましょう。

願わくは、我々の努力が皆様の耳を喜ばせることができますように。

作者の意図もそこにあるのですから。そうすれば我々の懸念もなくなるで  
しょう。

我々の初めての試みに辛抱強く耳を傾けてください。

この試みは必ずや我々に最善を尽くさせるでしょう。そうすれば我々に不  
面目をもたらすことはないでしょう。

辛抱強く我々の初めての試みを受け取ってくださいれば、

皆様はほどなくより良き作品を得ることでしょう、神がお許しをくださる  
なら。

(ヴァージニアス登場。)

ヴァージニアス： 運命の女神がそれぞれの宿命に定めを示す前、

また鳥や獣、魚や家禽が地上に姿を見せる前に、

神々は、今あるように、天空と天球にかたちあれとお命じになり、  
天空の水の下に落ちよとお命じになった。

その後、神々は土塊から男をお造りになり、聖なる御心が  
最善に行われると思われたので、彼に支配すべき時をお与えに  
なった。

これが終わると、神々は、幼年期から元気旺盛な青年期に至るま  
で共に生きるようにと、

また、気づかぬままに時のイータスに欺かれるまで

しばらくの間、この地に君臨し、よく生きるようにと、

彼の柔らかい脇腹から美しい女をお造りになった。

その上、これらの神々の贈り物が確かな目的にかなっているのを御覧になって

彼ら二人を優美に飾られた、後にそのことを神々はお嘆きになるかもしれないが。

だから、ふさわしい妻、情愛深い伴侶と巡り会う定めをお与えくださった天上の神々に感謝する。

妻との間には美しい娘が、天使ともまごう娘がいる。

真面目で、優しく、慎み深く、また同様に徳の高い娘だ。

それゆえ神殿に行き、神々を誉め称えよう。

神々はこのように幸せな日々を私に与えてくださっているのだから。

いや、待て、見ろ。今言った並ぶ者なき輝かんばかりの二人がここに近づいて来る。きっと教会へ行くのだろう。

しばらく留まり、身を隠して、

どのような立派な知恵や分別が二人の口から語られるか見よう。

（母親とヴァージニア登場。）

母親：　あまりに活発で性急な青春は懲らしめを受けねばなりません。でも、娘よ、あなたにはその必要はありません。見ただけで真面目な人物であることがわかります。

太陽の神フィーバスが光の矢で若者の心を荒廃させ、

若者たちが忌むべきものを求めようとしているのを目にするのは私には辛いことです。

私は慕へ近づいています。そして、望ましいものとして、大切な方に対して理性が要求する義務ぐらいしか

あなたに残してあげることができません。

私のこの上なきお方、優しい夫、ヴァージニアス、あなたのお父上のことです。

私の亡骸が埋葬されたら、子供の義務にふさわしく見てさしあげてください。

ヴァージニア：　死の嘆きをお心から払いのけ、どうか安心してください、お母様。

気の進まぬ義務ですが、自然の女神は私にそれだけのことはしなさいとお命じになるでしょう。

天と地と宇宙とを支配なさる神々も、もし私が義務を果たさなければ、この私を軽蔑なさるでしょう。

母親： 神々があなたにお父上を愛する恵みをお与えくださっているのなら、

時があなたに配偶者を選ぶときも、変わらずにいてくださいよ。その方に愛や信頼を与える前に、お父上を十分に愛して生きてください。

そうすれば、あなたの愛も長く続くでしょう、そう経験が言っています。

ヴァージニア： わかりました、お母様。その通りだと私も思います、時がそのように備えてくれるのなら。

しかし未熟な若さと幼さが私に待つよう望んでいます。

私がダイアナの贈り物を失わねばならぬとしたらどうでしょう。

泉を、そのほとりでアクタイオンが最後の狩りで命を落としたのですが、その泉を遠ざけねばならぬとしたらどうでしょう。

パルナッソスの丘のいたるところで

私が卑しいものと見なされたり、あるいは私の乙女の名が汚されたりしたら、それは一大事です。

しかし私の名はまだ汚されてはいません。そうです、私はこう考えています、

両親の愛と許しとによって結婚が乙女の名を要求するのなら

私は頑にならず

進んで従います、

お二人の御命令なのですから。御命令のないうちは、従いません。その時は両親への義務が私を守ってくれるでしょう。

ヴァージニアス： ああ、神々よ。空、海、川、陸を支配し統治なさって  
おられる神々よ。

このような二人を手でお造りになったとは思えません。

ああ、神々よ、なぜどの婦人にもこの二人のような人間になるよ  
う強いることをなさらないのですか。

そしてどの婦人の子供にもこのように子としての義務を知るよう  
強いることをなさらないのですか。

もう喋らずにはいられない。どうしても妻に声を掛けねばなら  
ぬ。

妻よ、よいところで会った。それに娘もだ。何かあったか。

機嫌はどうだ。

母親： 愛しきヴァージニアス、私の喜び、並ぶ者なき夫よ、伴侶よ。  
ありがたいことに元気です。あなたのご様子を見て嬉しく存じま  
す。

ヴァージニアス： わが娘ヴァージニアよ。

お前はどうか。

ヴァージニア： お母様が申された通り、私も幸せです。

ヴァージニアス： 私には何とも嬉しい光景だ。

妻よ、本当に、このような宝物、

測り知れぬ宝玉、宝石を

とても嬉しく思うぞ。

何と幸せな妻よ、幸運な妻よ、

何ものもそなたの名を汚すことはできぬ。

それに、わが娘、わが継ぎ穂よ、

お前はありとある女性を明らかに凌ぐ。

母親： いいえ、あなた、私の方こそどれほど嬉しいことか。

このように日毎に滴る幸せな恵みを与えられて。

すべての者にふさわしいものを与え給い、

私のことを喜び、私の胎の実りを喜んでくださる

わが愛しい夫よ、

それに報いぬ者がおりましょうか。そのような者がおれば、神々

よ、審きを下し給え。

そしてもし私がそのような者であれば、神々よ、私を破滅させ給え、

それほどの酷い罪が私を苦しめるくらいなら。

ヴァージニアス： 妻よ、苦しみを得たいとの願いなど退けるがよい。

私はそなたの欠点をよく知っている。

そなたと娘が悲しみを被るよりは、

私が殺されたほうがいいくらいだ。

ヴァージニア： 私の慰めであるお父様、私の喜びであるお母様、

大事なお母様、この上なきお父様、お願いです、

何の危険もないというのに、そのような悲しいお話はやめてください。

喜びのあるところで、このような嘆きが、なぜ必要でしょうか。

夫人であり、伴侶であり、養育者であり、妻であり、

慰めであり、お父様の全てであるお母様。

夫であり、恋人であり、喜びであり、慰めであり、

王にして皇帝、お母様の唯一の宝であるお父様。

そのお父様とお母様が私の命を支えてくださっているのです。

私はお二人の子供、お二人に喜びと幸福をもたらす者です。

ですからお嘆きをおやめください。そして歓喜がしばしば訪れますように。

悲しみは立ち去り、我々に降りかかりませんように。

ヴァージニアス： 妻よ、伴侶よ、嬉しく思うぞ。

母親： あなた。

ヴァージニア： お父様。みなそう思っております。

三人（合唱）：

地上で最も信頼できる宝物は、かくのごとく、

夫と妻と子供たちとが一体になっていること。

そして、優しく情愛に従って節度と理性とを

時宜にかなうよう融合させよ。そこにこそ親愛の情が成り

立つ。



ヴァージニアス（歌う）：

詩人たちがその優れた判断力ゆえに引き合いに出す、  
あの学識豊かな若きアレキサンダーを自然が最初育んだ  
時、  
愛を抱く何者が彼の命の終わりの近いことを望んだであろ  
うか。  
これこそ親が子を愛するところにある希望、心配無用。

三人（合唱）：

地上で最も信頼できる宝物は、かくのごとく、  
夫と妻と子供たちとが…。

母親（歌う）：

ニスス王が娘に教育を授けることを望まず、  
導き手によって娘が徳を授けられることを望まなかった  
時、  
娘は、義務の念を欠き、父親の見事な金色の髪を切った、  
そのため王国は侵略を受け、娘は報いを受けた。

三人（合唱）：

地上で最も信頼できる宝物は、かくのごとく、  
夫と妻と子供たちとが…。

ヴァージニア（歌う）：

ダイダロスが彼の喜びの源イカルスと共に  
クレタ島を飛び立った時、  
イカルスは父の言葉を顧みず  
おのれの破滅を求めることになった。  
イカルスは天空高く舞い上がった。  
それを見て神々は眉をひそめた。  
太陽神フィーバスはひどくイカルスの翼を焼き  
イカルスを真っ逆さまに投げ落とした。

三人（合唱）：

地上で最も信頼できる宝物は、かくのごとく、  
夫と妻と子供たちとが…。

ヴァージニアス (歌う):

となると、強い愛情は不和を引き起こすこともあり、  
過度に愛するところには憎しみがしばしば忍び寄る。  
まったく愛情を持たぬとなると、悪しき噂を広めるラッパ  
が鳴り響くだろう。  
だから、よいか、妻よ、伴侶よ、そして愛しい娘よ、  
節度を地の支えとせよ。

三人 (合唱):

地上で最も信頼できる宝物は、かくのごとく、  
夫と妻と子供たちとが一体となっていること。  
そして、優しく情愛に従って節度と理性とを  
時宜にかなうよう融合させよ。そこにこそ親愛の情が成り  
立つ。

(全員退場。)

(悪徳ハプハザード [でたらめ] 登場。)

ハプハザード: 承知しました、承知しましたとも。準備ができ次第速  
やかにやりましょう。

悪魔と組むやつは油断も隙もあっちゃならない。

じゃなきゃ、運もつきゃしない。

それにしてもこの俺様はほんとに立派な紳士様。

ほれ、この長いガウンでおわかりだろ。

だが、一体この俺は何者だ。学者、先生、でなけりゃ若者か。

法律家、学生、でなけりゃ田舎っぺ。

帚売り、籠作り、でなけりゃパイ焼き職人。

肉屋、魚屋、でなけりゃ嘘つき屋。

虱でなけりゃ虱取り、葱でなけりゃ雲雀。

夢想家でなけりゃ阿呆、火でなけりゃ火花。

卑劣漢でなけりゃ人殺し、はたまた人目につかぬ日和見か。

間抜けか、縛り首役人か、でなけりゃ間男か。

まったく、俺の名前と性質をうまくごまかすのに

一番いいのをどうひねり出したらいいのかわかりゃしない。

商んどか、瘦せたノッポ、でなけりゃ亭主か、鯖か。  
 ヤドカリか、ざり蟹、でなけりゃ鶴か、雄鶏。  
 俺の性質にゃ、こいつらみんな備わってる。  
 何かの性質を伸ばす時もありゃあ、壊す時もある。  
 乙女でなけりゃカラス貝採り、女房でなけりゃ野の鴨か。  
 目の見えぬ鹿毛の馬のごとく大胆、山嶋のごとく賢く、  
 五ペンス貨のごとく極上で、孔雀のごとく高慢で、  
 干魚のごとく豊満で、女々しい男のごとくめそめそで、  
 乞食のごとく肥え、愚か者のごとく重くて、  
 鋳掛屋のごとくいと正直、ふくろうのごとく懐ゆたか。  
 ほら、芸当だ、でたらめ踊りをするやつの踊りときたらこんなも  
     ん、  
 三の目だして三進む。そんなやつはくそくらえ。  
 はちゃめちゃめちゃくちゃ踊りをするやつがこんなでたらめやっ  
     てんなら、  
 可哀そうにハプハザード様もそれほど珍しい男じゃなかったな。  
 でもハプハザードよ、元気を出すんだ。  
 遊んで、たらふく食って、これからも陽気にやれよ。  
 食べ物うまいが手に入れにくく、  
 恐らく多くのやつらが疫病で命を落とすだろう。  
 でたらめだけど俺様はうまくやっていけるだろう。  
 金がなくなたって、いつか陽気になれるさ。  
 （マンシパラス登場。）

マンシパラス：    いつになったら来るんだ、疫病つきの糞ばばあ、もた  
     もたするな。  
 たぶん道草食ってんだろう。  
 まったくだ、もうずいぶん待ちまった。  
 御主人様は今頃は教会の近くにおいでだ。  
 それもみな、ブツブツ婆あ、あの太っちょ女のせいだ。  
 あいつが急がなきゃ、一発ぶん殴ってやる。  
 （マンシパラ登場。）

マンシパラ： 何だって、アヒル鼻の阿呆、このあたしを馬鹿にしよ  
うってのかい。

肉ダンゴ棒使って揚げちまうよ、この田舎っぺ。

威張り屋、自慢屋、がなり野郎、

お前の四十ペンスくれてやらあ、このがなり屋め。

この馬鹿者め、あんたが行きたいって言ったって、

あたしの奥様の大事な仕事はそろそろ終わっちまってるさ。

この阿呆タラ頭、縛り首野郎、このおしゃべりパイめ。

さあかかっておいで、いくぞ、男かどうか試してやるわ。

(彼を殴り、押さえつける。)

ハプハザード： おいおい、二人ともやめろ。

どうしたんだ、なんてまあみっともない。

取っ組合ったり、宥めたり、大騒ぎしたり、

引っぱり合ったり、引きずったり、耳を引っぱったり、一体何し  
てる。

さあ、離れて仲直りして、喧嘩はやめにしな。

マンシパラス： いや、あの女なんか俺の剣の切先にかけてやる。

マンシパラ： 剣抜いてかかってくるがいい。受けてやろうじゃない  
の。

その剣をあんたの身体に突き刺すための許しがもらえるように  
さ。

まったくだよ、土地を失い命や暮らしを失うんでなきゃ、

あいつが破滅するようあの剣を突っ立ててやる。

マンシパラス： このガミガミ女ときたらまあよくもこんなに不躰に  
しゃべるもんだ。

マンシパラ： あいつだって同じくらい酷い言葉であたしに答えてる。

ハプハザード： ここには理性をなくした罵りしかないじゃないか。

今ひっぱたいたかと思うと今度は無駄口、かと思うとうまい具合  
に相手に口輪をはめ込む。

恥を知れ。いい加減にして、この喧嘩騒ぎをやめるがいい。

マンシパラス： わかったよ。きっと俺は自分のこの罵りを後悔するか

らな。

マンシパラ： 悪党、あんたがいなけりゃ、今頃は、  
奥様の教会の美しい席が、  
プリムローズやカウスリップや甘いスマイル、  
ミントやマリーゴールドやふさわしいマージョラムで華やかに飾  
られてたのに。

その席は今は汚いままさ、みんなあんたのせいだよ。  
あたしの邪魔をしたら、恥の報いを受けるがいいさ。

マンシパラス： 着飾った浮気女め、御主人様が跪くクッションと  
お読みになる本がここにある、さあ見てみろ。  
御主人様がこの俺を御覧になる時、そんな視線を投げたら、  
俺の心は痛んで今にも死んじゃいそうになるよ。  
そしてこんなふうにして、こんなふうにして御主人様の手が近づ  
いてくる、  
「悪党め、行ってしまえ、さっさと行ってしまえ」と言いながら。  
(かかっていく振りをする。)

ハプハザード： よせよせ、本当に殴ろうってのか。  
やつはこの俺様に言葉じゃなくて剣を向けてる。  
いや、俺もいくぞ。命を落とすことになるぞ。

マンシパラ： お願い、やめて。  
こんなにも真面目な人を殺そうっていうの。

ハプハザード： いや、女がやってくれと言やあ、間違いなく、やっち  
まっていたろうが。  
なんだってこいつは俺の堪忍袋の緒を切ろうとするんだ。

マンシパラス： さてと行かなきゃ。ここにいてもどうしようもない。  
正直言って、恐くて漏らしそうだよ。

ハプハザード： あんたの顔と鼻と顎に畏れてだな。  
まったくさ、これほど不躰な悪党のことを聞いたことあるか。

マンシパラ： こんな酷いやつのことは聞いたこともないよ。

マンシパラス： それは知識が足りないために他ならんさ。  
それにしてもこんなふうにご話してる間、ここで俺は無駄なことを

してるんだ。

さあ、来い、マンシパラ、二人で行こう。

マンシパラ： わかったよ、マンシパラス、急いで一緒に行くよ。

ハプハザード： いや、ちょっと待て、二人とも。俺は納得してないぞ。

マンシパラ： ぐずぐずしてられないんだよ、本当に。

ハプハザード： いや、待ってくれ。少し辛抱して楽しんでくれ。

まったく運まかせだな。見つからなきゃ

主人から殴られることもなかろうに。

恐らく彼は誰か友人と話をして引き留められているんだ。

まったく運まかせだぜ。だから行く前に歌を歌ってくれ。

心配しないですむように、希望に助けてもらえばいい。

マンシパラス： 偶然にか、でたらめにかわかんないけど、歌うよ、泣く前に。

こう言おうじゃないか、歌って悲しみをやりすごそうって。

マンシパラ： あたしたちぶっ叩かれるだけかもしれない、それが最悪だ。

(サブサーヴァス [従者] 登場。)

サブサーヴァス： どうした、マンシパラス。この悪党め、くたばっちまえ。

御主人様はお話の最中、で俺はお前を捜してた。

さあ来い、来いたら来い。走れ、大急ぎで。

マンシパラス： おい、聞いてくれ、サブサーヴァス、待ってくれ、お願いだ。

一つ歌を歌おう、そしたら行くよ。

サブサーヴァス： いいよ、急ぐんなら。

全員 (合唱):

予期しようが偶然だろうが、災いが来そうな時、

いいかい、最後に起こる最悪の事態は殴られること。

マンシパラス (歌う):

もし御主人様がたまたま俺のいないことを知ると、

起こりうる最悪の事態は棍棒での接吻。

そういう甘美さは、マリア様に誓って言うけど、  
誰か他のやつに起こりゃあ、もっと嬉しいことだろう。

全員（合唱）：

パチーン、ピシャリ、ゴツン、ゴツン、  
コン、バーンとくる一撃を、  
片鞍乗りの肩でかわしてくれる。  
予期しようが偶然だろうが…。

マンシパラ（歌う）：

奥様があたしのことを脅しつけたって、  
口答えしようがないし、奥様が家に戻るまで  
しばらく我慢しよう。いいかい、家へ戻ると  
医者が疑うほどにこのあたしのことをこっぴどく扱うん  
だ。そうなったら、何て言い訳しよう。

全員（合唱）：

パチーン、ピシャリ、ゴツン、ゴツン、  
コン、バーンとくる一撃を、  
片鞍乗りの肩でかわしてくれる。  
予期しようが偶然だろうが…。

サブサーヴァス（歌う）：

お前たちと一緒にいると災いを招くなら、  
すぐにもお前たちと別れたっていいんだぜ。  
希望に兜を押さえさせ、鋒先過ぎるまで待っている。  
殴られたって、殴られるだけのこと、罵られたって突風一  
吹きだけのこと。

全員（合唱）：

パチーン、ピシャリ、ゴツン、ゴツン、  
コン、バーンとくる一撃を、  
片鞍乗りの肩でかわしてくれる。  
予期しようが偶然だろうが…。

ハプハザード（歌う）：

だったら陽気にやろうぜ、ただの偶然さ。

偶然の出来事にはひどい一撃が隠されてるかもしれん。  
元気を出して陽気にやれ、喜び、楽しめ。  
殴られたって殴られるだけのこと、ほんの一瞬辛いだけ。

全員（合唱）：

パチーン、ピシャリ、ゴツン、ゴツン、  
コン、バーンとくる一撃を、  
片鞍乗りの肩でかわしてくれる。  
予期しようが偶然だろうが...

三人： ハプハザード、あばよ。神々もあんたに感謝だよ。

（三人退場。）

ハプハザード： あばよ、あんたら。あばよだ。陽気に行けよ。  
まったくだ、ハプハザードよ。あいつらお前を試したんだ。  
お前が男じゃないと言った連中は確かにお前に嘘ついたんだ。  
神かけて、海でも陸でも大商人は、  
言っとくが、この俺様がそいつの主人でなけりゃ  
わずかの金しか儲かりゃしない、  
どんな偶然が続くか望みを抱いて運まかせする時にな。  
宮廷じゃ俺は男じゃない、誓って言うが、そんなことを言うやつ  
は嘘つきだ。  
ひょっとしたら俺様は農夫さ、さもなきゃ死ぬ前に  
紳士、宮廷人あるいは大将になるかもしれん。  
ひょっとして運によっちゃあ、物乞いしてるかもしれん。  
手近に金が欲しくて土地を売り払う  
大地主の跡取りの紳士かもしれん。  
運によっちゃあ、もっと多くの土地を買うはめになるかもしれ  
ん。  
貯えを使い果たしたら兵隊になってるかもしれん。  
運によっちゃあ、月の巡りが変わって  
部下が主人になるかもしれん、女房どもが気を変えなくなるかも  
しれん。  
運によっちゃあ、多くの豪農屋敷で



女房どもが股袋を着け、娘たちが妙におとなしくなりゃしないか。

孔雀がたまたまスモモの木に気取ってとまっているようにこの国の習わしで乙女たちが主になりたがる。

ハプハザード様はこんなことみんなちゃんとお見通し。

もし空が偶然落ちてきたら、雲雀が手にはいるかもしれん。

さて、どうなることやら、これでおさらばだ。

ポケットに手を入れて、財布にゃ気をつけな。

（退場。）

（法官アピラス登場。）

アピラス： 皺の刻まれた運命の顔が、私を苛む苦しみを引き起こすのか。

この地の支配者であるこの私が人を愛さずにいられない。

私、法官アピラスは、この世を治めるあらゆる者のうち最も君主にふさわしい法官、

長いことそのように評価されてもきた。しかし今、私の力も消え失せた。

私はもはや支配するのではなく支配されている、裁くのではなく裁かれている。

ヴァージニアの美しさによって私のすべての知恵は足取りがおぼつかぬ。

おお、比類なき女性、素晴らしい方、本当に美しい顔、

かつて自然がこれほどの美と比肩させたものはなかった。

おお、愚かなアペルズよ、おしゃべり阿呆め、なぜあれほど大法螺を吹くのか。

ギリシャでお前の描いた最も有名な作品、その顔立ちがかくのごときものであったのか。

自分の作品の美しさのために惑わされた男よ、なぜお前は

あのような愚かな欲望を抱き、少しも美しい命などないのに、

愚か者め、激情に駆られて狂ってしまったのか、愚かなピグマリオンよ。

だが確かなことは、お前たちが私の大切な人を見たとしても、同じものを造れないということ。

ではどうしたらよい。おお、天上の神々よ、身を屈め、私の嘆きを聞き給え、

かつてリュキアの泉のほとりでサルマキスになさったように。

おお、ヴァージニアがかつてのサルマキスのようであったなら、そしてヘルマプロディトゥスのかわりにこの私がおのれの至福を見つけられたら。

ああ、神々よ、私の首に絡みつくあの人の腕を私が解きたいと思うでしょうか。

あの人の敏活な手を私が傷つけたいと思うでしょうか、あるいはあの人を制止したいと思うでしょうか。

あの人の柔らかな肌が、私と同じところで、水浴するのを禁じたいと思うでしょうか。

あるいはあの人の柔らかな甘い唇が私の生身の身体に触れるのを拒みたいと思うでしょうか。

いや、神々は私の心を知っておられる。私はむしろ

求愛し、仕え、身を屈め、跪き、欲望を激しく求めたい。

しかし失せよ、神々。汝ら眉をひそめ、私の行状に顔をしかめる。私の定めなき運命を押し進めてくださらぬ。私の心労を考えてくださらぬ。

邪悪で不公平な神々よ、不誠実で信頼できぬ神々よ、

私を生き永らえさせこの不幸な日を見させたこの時に呪いあれ。

イピスはそう美しくもない女性への愛のために首をくくったのか。

ジョウヴは軽やかな大気から霞となって下界に降りたのか。

イナコスのやさしい娘について詩人たちが語るように、

ジョウヴも愛ゆえに牛を造ったのか、その牛をイナコスはい長い間捜し求めたが。

愛は、物語が語るように、オルフェウスが試みたごとく、

生者を地獄へ入らせるほどの大きな原因となるのか。

となると愛にできないことは何か。ああ、愛は空を貫いた。  
フィーバスとマーキュリーも愛で目を眩ませた。  
しかしこの私は年を重ねた法官だ、悪名のラッパで  
大いなる不名誉を鳴り響かせるような名前をこの身に受けること  
になろう。

ああ、もっと若ければよかったものを、結婚していなければよ  
かったものを。

（ハプハザード登場。）

ハプハザード： やめてください、閣下。たぶんあの人はあなたと寝る  
でしょうから。

私の忠告に従ってくださいな、どうか。  
心配で激しく打つ御心も楽になります。

アピラス： いかなる罪に対しても怒りと悪疫とを下す  
雷鳴轟かす神々よ、  
御自身もこのうってつけの目論見に  
助言をお求めになりたいことでしょう。  
あなたがたの素早く伸ばした腕が  
よく狙いを定めて飛びかかろうとするでしょう、  
私のとても大切な人、ヴァージニアを  
手に入れるためなら。  
そして、友よ、ジュピターにかけて誓うが、  
またジュノーの座にかけて  
またすべての不可思議にかけて誓うが、  
それらにかけてお前も願いごとができるのだが、  
私のすべての領土の大部分を  
お前のものにしてやろう、  
永遠にお前を楽にするために、  
お前に与えてやろう。

ハプハザード： ではこんな一件ですので、私の忠告はこうです。  
たぶんこの術策がお気に召していただけでしょう。  
お二人を結ぶには、偶然でもそうでなくても、

運が良くても悪くても、他に方法はありません。  
何が降りかかろうとあえてやってみようとおっしゃるなら、  
たぶんこのハプハザードが閣下のすべてののがんじがらめを終わら  
せましょう。

アピラス：　　そうするつもりだ。そうしようとも、お前が勧めるのなら。  
幸運であれ偶然であれ、どんなことが私を襲うだろう。  
王であり皇帝であり統治し制圧する私、  
この私の領土内では自分の好きなようにやる。  
だからお前も自分の判断でとりかかるようにするがよい。  
たまたま生きるのであれ、たまたま死ぬのであれ、私は必ずや  
やってみよう。

ハプハザード：　　それならこういうことです。  
お世辞で言うのでなければ、多くの言葉は必要ないでしょう。  
命を賭ける者もたくさんおりましたよ、  
閣下のお苦しみをうまく和らげるためになら。  
そのような術策についてお話ししましょう。  
誰かがヴァージニアスを御前に召喚せねばなりません。  
ヴァージニアはヴァージニアスの娘ではなくて、  
彼が夜陰に乗じて奪ったのだと言うのです。  
そして父親に娘を連れて来るようお命じなさい。  
娘を留めておくのです、事態がはっきりするまで。  
そうすればあの娘を自分のものにできます、屋敷に置いておけま  
す。  
ほんのたためです、なんであれ。

アピラス：　　わかった、そうしよう。やると誓うぞ。  
恥や不名誉を被っても構わん。  
だが、失せろ、傷を負ったぞ。心が裂けた。  
(ここでアピラスは退場する仕草をする、そして良心と正義が彼  
の後について登場。良心は手に燃えるランプを持ち、正義は剣  
を持ち、アピラスの胸の前に突き出す。)  
私の命の二つの状態が今、私からそっと出てきた。

良心は私を軽蔑し、私の心を刺す。  
正義は審判が私を裁くと言い  
良心は必ずや残忍が私を糾弾すると言う。  
正義は最後には死が私を苦しめると言う。  
両者が突然叫んでいるようだ、  
永劫の炎が私の魂を破滅させるだろうと。

ハプハザード： そんなのは妄想に過ぎませんよ、全く呆れたな。  
だって良心は無頓着なやつで、海を航行中、  
籠のなかに入ったまま溺れて、病気になったんです。  
人には哀れみを与えぬくせに、盛んに哀れみをくれと訴え、  
頑ゆえに石に変えられてしまったんです。  
そしてサンドウィッチ付近を航海中自分の罪の重さで沈んだんで  
す。  
だから良心のことなど針の価値ほども気にしてはいけません。  
正義はいつも正しく裁いて褒美がもらえるように  
裁きを下していたんです。しかし今や全てが損なわれてしまいま  
した、  
裁きのないところで贈り物が与えられたためです。  
それで裁きと正義とは道を誤ったんです。  
だから良心を作り話の価値ほども気にしてはいけません。  
正義は何もすることができません。

アピアス： そうだったのかね、友よ。それならなるようになれ。  
良心には手探りさせ、裁きには懇願させよう。私は少しも怯まぬ  
ぞ。  
自分の考えを貫き通そう。あの人の若さを摘んでやる。  
絶対に後戻りはせぬ。後悔もせぬぞ。  
さあ、進め、そして私に仕えていてくれ、たまたま悲しい月に会  
おうと富を得ようと。  
たまたま鈍くても鋭くても、生きても死んでも。でたらめを通し  
て、成功するがいい。

ハプハザード： すぐ近くに（とスリは言う）いつでもおります。

スリには十分気をつけて。私の言う通りにしてください。

(アピアスとハプハザード退場。)

良心： ジョウヴの清く汚れなき贈り物よ、  
なぜお前は拒まれてしまうのか。  
清らかな良心よ、どれほど酷い心が  
お前の真実をかくも虐待しているのか。  
邪悪な意志と  
放埒な愛と情欲と  
命の恐ろしい危険と  
不正な信念とによって私は汚された。

正義： ああジョウヴの贈り物よ、運命の顔よ、  
堅実な生活ぶりよ。  
私は正義、同輩の君主だ。  
法や争いを決着させるもの、  
公共の福利を導くもの、  
貧しい者を守護するものだ。  
それなのに汚らわしい愛欲が  
私の徳を一時間で押し殺した。  
さて、さて、正義は信頼すべき最大のもの。  
最後にはこうした我らの敵が  
剣と炎とで滅びる姿を  
見たいと望む。

良心： おお、助け給え、神々よ。我らみなでお願いします。

(良心と正義退場。)

(ハプハザード登場。)

ハプハザード： 儲けも大きくない、  
安ピカものも取っておかれず、  
可哀そうな連中が  
プディングにもパイミートにもありつけない。  
そういう時、運よくハプハザードが  
新しいコートを手に入れるんだ。

そうなりゃ強欲の喉を  
かっ切ることだってありうるさ。  
そう、そうなりゃ、法官アピアスは  
ヴァージニアを手に入れるだろう、  
鷺がカラス貝を割るだろう、  
たぶん雨降りに。  
雲雀が子兎になって  
あちこち跳びはねる。  
田舎者が馬鹿タラ頭になるだろう。  
恐らく、まったくその通り。  
しっ、人が来る。  
ハプハザード、沈黙だ。  
これ、おしゃべりの馬鹿者めが。  
法官アピアスがやって来た。

（法官アピアスとクロードィアス登場。）

アピアス： 忘却の湖の恐ろしい復讐の女神たちは  
私の君臨の日々を縮める。  
私は溺れて死んだようになって生きている、  
喜び楽しんだこともあったのに。  
生きていても命がやつれるばかり、  
傷ついた鹿のごとくに。  
私は渴き、求め、叫ぶ。  
なのに少しも近くはならない。  
しかもなお自分の内に  
私に挑むものがある。  
しかし心配の中でタンタラスのごとく、  
私は飢え、渴き、やつれ衰える。  
シンフォスのように、私は石を  
むなしく山の頂きへと転がし上げる。  
その石はいつも不安定に  
転がり滑り落ちる。

あの人に対してなら自分に対してと同じように  
どんな労苦も私は避けないだろう。  
どんな怒り狂う海をも乗り切って進むだろう、  
あの人のためなら。  
しかし、ああ、私はひどく心配だ、  
眠りの神モルフェウスが  
彼の眠りの王国に美しい露を  
置いてくれないのではないかと。  
天を支配する神々よ、  
至福のうちにラッパを吹き鳴らす汝ら天童たちよ、  
汝ら、女神たちよ、美神たちよ、  
この燃える矛先は何なのだ。  
汝らの怒りを向け、私を速やかに破壊せよ。  
さもなくば、この燃ゆる胸に  
ヴァージニアを抱く恩寵を与えよ。  
それだけでいい。  
地獄の悪魔や亡霊たちよ、  
忘却の湖の嫌われ者たちよ、  
汝らの耳がまったく聞こえずとも  
汝らの力を示せ。  
汝、冥府の卑劣な王、  
プルートル、悪漢よ、  
すぐに呪われた復讐を送り込み、  
私の助けにならぬ者どもを  
墓へ追い払え。

クロードィアス： 承知しました。御意とあらば、  
私がやってみましょう。  
ヴァージニアスをすぐに  
御前へ召しましょう。

ハプハザード： どうかそうして下さい。心配はいりません。  
そうすればあの乙女を破滅させられます。



ただ運まかせだが、そうなるかもしれません。  
彼女をものにてきてもできなくても、罫を仕掛けてごらんなさい。

アピアス： それでよい、クローディアス、さあ。  
急ぎ準備してヴァージニアスのところへ行け。  
あの男を告訴し、彼の忠誠心にかけて、  
すぐさま、法廷の私の席の前に来るよう、  
命令を下せ、  
土地と命と財産を召し上げるぞと脅して。  
どのような障害にも、妨害にも、どのような混乱にも  
この重い告発の推進を  
滞らせはしない。

（クローディアスがハプハザードと共に退場。）

これで自由に私の思いを口にすることができる。  
かつてタークィンが美しいルークリスを力尽くで押し込めたの  
と同じように、  
ヴァージニアを扱おう。  
（舞台裏で良心が話す。）

良心： 法官アピアス殿、待て、留まれ。  
友人の言うことを聞け。  
タークィンは最後には公の恥辱を受け、  
非業の死を遂げたではないか。

アピアス： 心を突き刺すこの声はどこから下って来るのか。

良心： 悔い改めの良心からだ。あなたの命の  
大事な一部をなすものに駆り立てられて、  
大声を出して叫び、我らの闘いを  
終結させるよう強いられているのだ。

アピアス： ではお前は何者なのだ。言ってくれ、手短かに。

良心： 私は肉体でも汚れた情欲でもなく、  
内なる良心だ。  
死に近づいた今、

魂を震わせながら叫ばずにおられない。

アピラス： 私には何の病も近づいていない。私に不満を言わせるような悲しみもない。

ただ美しいヴァージニアがいないだけだ。あの人の美しさこそ私の法官だ。

彼女によって私は生き、彼女によって私は死に、彼女を求めて喜びそして悲嘆に暮れる。

彼女を求め私の魂は浮きも沈みもする。私は誓う、彼女を求めて行くと。

良心： ああ神々よ、いかなる知恵が支配しているのか、しかもあなたがたにはわからない知恵が。

私は死ぬ、そしてこの汚れた肉体が植えつけた魂は破滅する。

アピラス： そんなことは構わない。私はやってみるぞ。ここでクロードィアスを待とう。

いや、会いに行こう、どんな知らせか、どんな様子か知るために。

(退場。)

(ハプハザード登場。)

ハプハザード： 縊り縄の危険があっても、急いで縛り首役人のところへ行く、

金貨一枚のために走る、そんな阿呆はいやしない。

クロードィアスは槌と石とで

ヴァージニアスの門を叩いてる、思いっきり強く。

ほんとに、皆さん、ハプハザードは大胆だ。

やつは素早く走る、そんなのは他に多くはいないぞ。

そう、やつは高い声で歌うし、誰にも劣らずきびきび動く。

しっ、静かに、あそこからやって来るのは誰だ、あの陽気なやつは。

(マンシパラ、マンシパラス、サブサーヴァス歌いながら登場。)

三人 (合唱):

みんながわけもなく

怪しげに大声で叫んで、

無鉄砲のため自由を危険に晒すことを恐れる時、  
盲目の鹿毛の馬のごとく大胆な  
ハプハザードには陽気にやってもらいたい。  
楽しい仲間付き合いを避けようとするやつの  
無礼なんか気にするな。

マンシパラス（歌う）：

主人の残酷さが俺を急き立てたり、突いたりしたって、  
主人の杖が仲間と楽しく付き合ってたと言って俺を打ち懲  
らしたって、  
俺は盲目の鹿毛の馬のごとく大胆なハプハザードにとこと  
んついてくよ。  
楽しい仲間付き合いを避けようとするやつの無礼なんか気  
にするな。

全員（合唱）：

みんながわけもなく  
怪しげに大声で叫んで…。

マンシパラ（歌う）：

あの奥様があんなに怒ったり詮索したことなんてなかった  
し、  
あの人の打擲があんなに乱暴で荒々しく痛かったことはな  
かったよ、  
でも盲目の鹿毛の馬のごとく大胆なハプハザードよ、あた  
しは必ずやってやる。  
楽しい仲間付き合いを避けようとするやつの無礼なんか気  
にするな。

全員（合唱）：

みんながわけもなく  
怪しげに大声で叫んで…。

ハプハザード（歌う）：

じゃ俺についてこい、マンシパラス、マンシパラ。  
忍び寄る心配なんか振り捨てて、俺についてこい、俺につ

いてこい。

サブサーヴァスは陽気なやつだ、盲目の鹿毛の馬のごとく  
大胆なハプハザードよ。

楽しい仲間付き合いを避けようとするやつの無礼なんか気  
にするな。

全員（合唱）：

みんながわけもなく

怪しげに大声で叫んで…。

ハプハザード：　　そう、神々にかけて、あんたたち、俺ははっきり言っ  
たよな、

俺と付き合うやつはまた俺と一緒にいたがるだろうって。

ところでどうだったんだ、教えてくれ。

全部うまく行ったか、誰もお前たちを殴らなかったか。

マンシパラス：　　それがね、たまたま主人が

立ち止まって牧場を眺めてたんだ、

それ見たら、どんな言い訳ができただろう。

十字路に来た時、フォーレイクの近くで

ホッジの半エーカーの土地のすぐそば、ミラー爺さんの踏み越え  
段のそこ、

一マイルほど先のぐるっと回った次の道、

シムキンの畝の脇で、主人が立って話をしてた、

そして俺に怒って言った、どこをほっつき歩いてたんだって。

俺はたじろぐことなく、すぐ嘘を吐いた。

橋のとこの牧場とベノルの牧場ですって言ったんだ、

ありがたいことにあなたの家畜は良く草を食べてます、

牛の腰は立派に育ってますって。

するとフランシス・ファビュレーターがしゃしゃり出て、あいつ  
は友達なんかじゃないけどさ、

ロングメドウの端でどうカーターの干し草の山を通り過ぎたの  
か、

この二、三日の間に一つ山があっただろう、

投網が掛けてあって四人の悪者を懲らしめたし、  
生け垣の陰には一組の新しい毛梳機があって引き裂いたり打つよ  
うになってたって言ったんだ。

本当か、と主人は言った。この道具を決して置きっぱなしにしな  
いだろうな、

置きっぱなしにすれば罵り合いや睨みあいやうろつきや盗みを引  
き起こすからな、

まあ、よく注意するんだな、私が見つけぬように、と主人は言っ  
た。

そして行ってしまっ、もう気にも留めなかったよ。

ハプハザード：ほんとに、そいつは面白かったな、ほんとに面白い。

マンシパラ：そう、でもあたしはもっと酷かったよ。

あたしの奥様は教会で座って熱心にお祈りしてた。

あたしの来るのを聞いて、振り返った。

でもあの人のがみがみを聞くとすぐ

こんなふうにあたしは地面にうずくまり

真面目そうなふりをした。

あたしが教会席を飾ってしまうと、

奥様は目配せしてつむじ曲がりの渋い顔をしたのさ。

それであたしはガウンを棍棒で打たれるとわかった。

で、あたしは結構な冗談をひねり出した、

感謝してもらえる方法なのさ、

酪農場の娘マージャリー・ミルドンと

倉庫番のどもりのステイナーの冗談さ。

そしたら奥様の怒りもすっかり消えたよ、

ずっとそうだろう、そして本当のことは知られぬままさ。

ハプハザード：裸足のマリア様にかけて、見事な仕上がりだな。

サブサーヴァス：いや、俺の方がもっと見事に切り抜けたよ。

というのはある時はこっちの生け垣の陰にいたんだよ。

ある時はこっちの藪にいたり、あっちにいたり、

またある時はこの二人の後ろにそっといて

誰とも当たり障りのないおしゃべりをしたのさ。

でもこんなふうに何もかもうまく行ったよ。

でも、それは危険なんだ、時が本当のことを言うといけないから。

ハプハザード：　　おい、おい、それは単なる偶然だったんだ。そしてもしそうならば、

まあ、偶然だったんだから、そうしておけ。

サブサーヴァス：　　わかったよ、本当さ。これで、災いもみんなおさらばさ。

マンシパラス：　　おいおい、もしそうなら、お前偶然本当のことを語ってるんだな。

三人：　　じゃ、ハプハザードの旦那、少しの間、さようなら。

ハプハザード：　　俺の忠告をどんな時もお前たちのそばから離すな。

三人：　　ええ、誓ってそんなことはしませんよ。

ハプハザード：　　さて、ここには連れはいないから、一緒に遙かなジェリコへ行こう。

(全員退場。)

(ヴァージニアス登場。)

ヴァージニアス：　　神々は私に対して何をしようと定められたのか。

法官アピアスが私にあのような挨拶をなぜするのか不思議だ。

私はあの男の座と国に仕えてきた、彼の繁栄を支えてきた、

猛々しい反乱者を押さえてきたし、これほどの熱情を彼に対して抱いている。

なのに今、彼は、命と土地を取り上げるぞと、この私を告発している、

異議なく、あるいはこれ以上躊躇することなく、何の検討もせずに、

すぐさま裁判所へ来て、

彼の法廷の席の前で、申し立てられていることに答えよとのことだ。

こういう話もある、こうした不幸が起きる時には

多くの前兆があるはずだと。私には一つどころか多くの前兆があ

る。

かつては貴重であった宝石が色褪せ、輝きを失った、  
私の分別はその道筋を避け、私の目は青く燃え、  
かつては機敏であった私のよく働く知恵も効きが遅くなり、  
心臓は不思議な鼓動をし、鼻はしばしば血を流す。  
恐ろしい夢は私の悲嘆を引き出し、ひどい危険を引っ張り出す。  
これらは悪いことの起きる前兆だと他愛のない言い伝えは言う。  
でも、白髪ヴァージニアスよ、お前は、  
一度も反逆を犯したことはなかった、このことは自信を持っても  
いい。

軍神マルスの試合で、お前はアピアスの無比の味方として武勳を  
立てた。

カリュブディスの危険な大渦巻きをお前はアピアスのためにしば  
しば攻めた。

スキラの力がお前によってしばしば避けられた、妖婦キルケもそ  
うだった。

パンパエの子、ミノタウロスがお前を怯ませたか。

アピアスを喜ばせ、アピアスに仕え、すべてを公正にしておくた  
めだった。

しかるに、天上の神よ、なぜこのような悪意を私に下すのか。

何も懸念を抱く必要はない、根拠ある理由は何もないから、

法官アピアスの門に入ろう、心配や嘆きは退けて。

だが待て、ヴァージニアス、お前の君主がここへ来た。

正しき法官閣下、神々のご加護がありますように。

（法官アピアスとクロードィアス登場。）

アピアス： ヴァージニアス、心からお前を歓迎する。

お前について聞いたことを言うのは残念だ。

というのは、この臣下クロードィアスが、大変名声ある男だが、

私の法廷に公然たる恥辱の行為でお前を訴えているからだ。

私は確かにお前の功績に値するくらいお前を愛してはいるが、

しかし正義が要求する判決を下してはならないほどではない。

ヴァージニアス： 閣下、それは道理でございます。閣下の僕は自分の言い分を守るために偏った処置や偏った考えを要求したりは致しません。

もし私が閣下を、閣下の法廷を、閣下の冠を少しでも損なったのなら、

高い塔のてっぺんから私を真っ逆さまに落としてください。

もし私によって反逆がなされず、何らの過ちが行われなければ、私を訴えている人たちにその非を負わせ、私を解放してください。

アピラス： それももっともだ、ヴァージニアス。さあ、クロードィアス、胸のうちを明かせ。

裁きがヴァージニアスを有罪とできるかどうか正義に聞かせよ。

クロードィアス： 正しき法官閣下、この件は次の通りです。

若い頃、まだそう昔のことではありませんが、十六年程前のことです、

ヴァージニアスは私の奴隷であった幼な子を巧妙な手口で私から奪い、力尽くで監禁しております。

ここ閣下の御前で正義が施されるよう望むものです、私の奴隷を取り戻し、過ちが正されますように。

ヴァージニアス： 天上にあって地球を導く神々よ、何という作り話を聞くことか。

法官アピラス様、この私の罪を晴らす間、耳を傾けてください。

あの子は私の子供です、私の愛する妻の身体から生まれたのです。

私が住んでいるこの国の全ての人々をこのことの証人にしてください。

(アピラスとクロードィアスは行きかけるが、アピラスは次のように語る。)

アピラス： いいや、神々にかけて、そうはしない、友よ、そう命じはしない。

お前に命じる、聞かぬと命はないぞ、娘を私のところへ連れてこ



い。

頑丈な獄の、監視の厳しい部屋に娘を独り住ませ、  
真実が明らかにされるまで、誰一人話をしてはならぬ。  
私はこう命じる、これは私の命令だ。命にかけて、  
必ずや囚人として娘を私のところへ連れてくるようにせよ。

（退場。）

（ヴァージニアスは絞首台の方へ行く。）

ヴァージニアス： ああ、何という気紛れな転落よ、不幸な運命よ、何  
と不確かな運命よ。

荒々しくそして常に偶然に働く運命よ、一つ所に留まることにな  
かった運命よ。

これは何という裁きだ。何と残忍なやつだ。クローディアスはど  
んな信念を持っているのだ。

神々があの男の偽りの不信心な心に恥辱をもって報いてくださる  
ように。

さあ、家に帰らねばならぬ、どうしようもない。家に帰れば  
溢れる涙が私の悲嘆を増し、喜びを減じる。死が私の恐れを取り  
除いてくれるだろうが。

（噂登場。）

噂： さあ、来い、ヴェンタス、吹き鳴らせ。

風の王エオルよ、よく聞くがいい。

これまであった最も汚らわしいことを  
私、噂が話そう。

神々よ、身を屈め私の叫びを聞き給え、  
正当な復讐を下し給え、

あなたがたの噂が願ひする、クローディアスにとどまるよう命  
じ給え、

法官アピアスを倒し給え。

あの邪悪な男、あの好色な法官は、

クローディアスを使って

老ヴァージニアスの

唯一人の後継ぎを自分のものだと主張させた。  
汚れなき乙女、生命の女王、  
その人の身の上が嘆かれることになるかもしれない。  
貞淑な生命の女王が、  
悪しき法官アピアス、あの極悪人によって、  
凌辱されそうだからだ。  
アピアスは厳しく命じた、  
自分のもとに拘束しておくため娘を連れて来いと。  
黄泉の国の王プルートルーが私にこう命じた。  
大空を飛び、悪名のラッパを  
あまねく吹き鳴らせと。  
神々よ、この噂は願う、  
この血とひどい汚辱に復讐を。  
大空を行け。大気よ、場を譲れ、  
これこそわが果たすべき務め。  
神々よ、このような好色家どもを打ち碎き給え。  
見よ、私、噂は、このように駆ける。

(退場。)

ヴァージニアス： 何というやつ、土塊、芥、泥、地獄、地獄の番犬の  
ようなやつ。

邪な法官アピアスよ、ひどい策略家よ、これがお前の暴かれた背  
信か。

お前に種を与え、お前を生んだ親に呪いあれ。

このような血腥いことを画策した赤子を生んだ胎に呪いあれ。

お前に乳を吸わせた乳首に呪いあれ、お前を育てた者にも呪いあ  
れ。

お前の健康を願った者たちに呪いあれ。

ああ、私の乱れた髪が土に埋もれてしまえばいい。

(ヴァージニア登場。)

ヴァージニア： お父様、我慢して少し激情を抑えてください。

なぜそのようにお嘆きなのですか、なぜ涙を流して悲しんでい

らっしゃるのですか。

ヴァージニアス： 愛しい娘、私の唯一人の後継ぎよ、私の命はほとんど尽きた、

お前への愛ゆえだ。

ヴァージニア： ああ、神々よ、どうしてそんなことがありえましょう。お父様、恐れを捨てて、理由を教えてください。

私は、生死を賭け、ためらわず、躊躇せず、お助けいたします。ですからあなたの娘のこの願いを優しく聞いてください。

ヴァージニアス： おお、娘よ、聞くがよい、私の話を聞きなさい。

法官アピアスは汚らわしい欲望に駆られて、

お前を愛人としてひどく欲しているのだ。

そして申し立てられたどのような懇願にも懸念にも恥にも逆らって、聞き入れようとしな。

そして、私は、すぐさま、遅れることなく、私の死罪を賭けて、お前をやつのところへ連れて行かねばならない。だから、私の息の根を止めるがいい。

運命の三姉妹よ、私は切に望み、求める、

汝らの手から死のみを与えてくれと、

私の娘が凌辱されたり、

ひどいやり方で乱暴に貪られるのを目にするよりは。

ヴァージニア： ああ、お父様、ああ、親愛の情よ、ああ、父の愛よ、

その優しいお言葉が甘美に響きます、

私の願いを聞いてくださるよう、跪いてお願いいたします、

すべてのことにおいてお父様に最も喜んで戴けるように。

お父様、私がもし一度でも汚されれば、

私の名も、私の血縁も、傷付けられてしまうということをお父様はご存じです。

そしてお父様が万一私が原因で亡くなれば、

世間は原因において私に罪があると見做すでしょう。

それよりむしろ、お父様、お父様がよろしければ、

私を死なせてください。そうすれば私は

私の宝、明かり、光、命を汚されずにすみませ、  
そしてアピラス法官は欺かれ、私の肉体を手に入れられません。  
慎んでこのように跪きお願いいたします。  
お父様、この切なる願いをお聞きください。

ヴァージニアス：　　では立ち上がりなさい、娘よ。お前の父親の口から  
返事を聞きなさい、この目からは涙が溢れる。

娘よ、可愛い、大事な娘よ、  
どうか私を殺してくれ、私の名など考えなくてよい。  
しかしお前の言う通り、逃れる方法はないから、  
もし私が死ねば、お前は愛人にならざるをえない。  
良い評判のまま死んだほうがいい、  
長く生きてこの身に恥のみ得るよりは。  
もしお前が死ねば、間違いない、  
私はすぐお前の後を追おう、  
そして恥辱を受けずに生を終えよう、そのようにやり遂げよう、  
名声のラッパを吹き鳴らして。そうすれば我々は決して死ぬこと  
はないだろう。

(ここでヴァージニア跪く。)

その優しい腕よ、私の首を抱いておくれ、素早い手よ、  
父親の涙を乾かしておくれ、悲しみのために、わたしの愛する心  
が萎えてゆく。

ヴァージニア：　　お父様、私の恥辱を終わらせ、肉体を死に至らしめる  
ために、

鋭い短剣を金の鞘からためらわずに抜いてください。  
恥知らずの残忍な法官に私の乙女の命を汚させないでください。  
私の首を取り、血塗れの短剣に刺してあの人に送りつけてくださ  
い。

血に飢えた手を私の罪のない血で染めさせなさい。  
私は乙女として死に、あの方は好色家として生きる。あの男ゆえ  
に私は死ぬのです。

これ以上遅れないでください。さあ、まずキスをしてください。

そしてお父様の強い腕を伸ばしてください。

私の嘆きを取り除き、私の喜びを増し、危害からあなたの娘を楽にさせてください。

ヴァージニアス： 悲しみであるいは幸福で疲れ果てた分別よ、弱々しい老人よ、

汝の腕でこのような打撃をいかに与えられよう。ならば汝の死を願おう。

しかし、もしお前の死の喜びが偽りの法官アピラスによるものならば、

恥辱が終わることのないラッパで鳴り響くであろうから、私がお前を殺そう。

許してくれ、娘よ、この血腥い行為を、そして従順に最期を受け入れてくれ。

（ここでヴァージニアスは一撃を加える。）

ヴァージニア： お父様、神々のお許しがありますように、さようなら、一撃を加えてください。

でも、ちょっと待ってください、お父様、肉体は死に対して弱いものですから、

まずベールで私に目隠しをしてください、それから一撃を加えてください。

さあ、お父様、私が生を享けられるように、どうかご意志の通りなさってください。

（ここで目のところにベールを縛り、首を切り落とす。）

ヴァージニアス： さあ、ヴァージニアス、その手を伸ばせ、肉体を滅ぼすのは気が進まぬであろうが。

残酷な手よ、血塗れの短剣よ、おお、お前は何ということをしたのだ。

お前の大切な娘、唯一人の後継ぎが最期を迎えたのだ。

来たれ、死の刃、速やかに私をも殺せ。来たれ、運命の女神アトロポス。来たれ、死よ。

汝、誰にも好かれぬ残忍な腕よ、ぐさりと突き刺せ、すぐにだ。

死を恐れるな。

(慰め登場。)

慰め： 高貴な騎士、ヴァージニアスよ、待ってください、うろたえないでください。

私、癒しの慰めがここにいて、あなたの悲しみの助けとなりましょう。

ヴァージニアス： 喜びは去ったのですから、命が死んだのですから、どんな慰めがありうるのでしょうか。

もういい。あとは深い絶望があるのみ。

そして私には最後の死があるのみ。

慰め： もうおやめなさい、騎士殿、首を持ってしばらく私と一緒に来なさい。

それを法官アピアスが見るように、法廷へ送りましょう。

好色家の欲望の償いとして、この贈り物を彼に受け取らせましょう。

そして代わりにしばらくの間あなたの身体を墓に入れることは思い留まってください。

そうすれば彼とその従者の最期を見ることになりましょう。

これがあなたの心の慰めとなるでしょう。ヴァージニアスよ、いいですね。

ヴァージニアス： 本当にその通りです、他に慰めのないことはよく存じております。

ですからお言葉に従います。さあ、参りましょう。

私自身が使者となり、私自らその贈り物を渡しましょう。

さあ、良き慰めよ、参りましょう。他に方法はありません。

(二人退場。)

(法官アピアス登場。)

アピアス： さて、どんなことが起ころうとも、偶然だろうがなかろうが、

運まかせだが、それでいい。

何が起ころうと追いつけるぞ。

何ものも私の意志の邪魔はできないのだから。  
ヴァージニアを手に入れるぞ、あの娘を奪おう。  
さもなくば鋭い刀であの娘の心臓をえぐり取ろう。  
（ハプハザード登場。）

ハプハザード： 俺はたった今遙かなカレコから戻ってきた、  
ハプハザードはたまたま雇われて縊り縄使ってた。  
梁に跨ったりして危なかったぜ。  
そして鳥の一群が木のとっぺんで翼を広げた、  
すると首が自分の尾の重さで呻いたぜ。  
するとカー・ニ・フェクスがこいつら三羽を一緒にして  
あっちの世界へ群れて行く通行証を渡してやった。

アピラス： おい、どうした、ハプハザード、何を言ってるのだ。  
変なふうには言葉を分けてるな。  
その三語は一つにまとめると  
カーニフェクスじゃないか、縛り首役人という意味だ。  
黙れ。私の前でそんな言葉を言うな。

ハプハザード： ええ、私はどぶの猫のようにじっとしてますよ。  
さあ、アピラス法官殿、やるんです、閣下。  
おそらく、失望することのないものを手に入れられるでしょう。

アピラス： この私のように死の扉のそんなにも近くで生きている男は  
何なのか。  
美しい女を欲しているながら、その女が手に入らぬために息の根が  
止まるだろう。  
しかし、まもなく、あの人の姿を見られるだろう、やって来るの  
を待とう。  
おお、幸運な光よ。あの人の父親がやって来る。  
何と嬉しいこと、でも得意になるな、美しい女性はまだ来ていな  
い。  
ヴァージニアス、娘はどこだ、まさか私の心を挫くのではあるま  
いな。  
（ヴァージニアスがヴァージニアの首を持って登場。）

ヴァージニアス： ああ、邪悪な法官よ、汚れなき乙女は  
その美しい顔を送ったのです、  
好色漢の利益の返礼として  
徳の欠けたあなたにです。  
娘は言っています、あなたの血塗られた手と  
汚らわしい好色の心とを  
恥を知らぬ愛欲のヴィーナスの娘たちによって染めよ、  
そういう娘たちがたまたま見つかるところで、  
しかし、あなたに純潔のダイアナの娘たちと  
関係を持たせてはならぬと。  
そういう娘たちは乙女の命が汚されるよりは  
抜き身の短剣をむしろ望むのです。  
そしてそのこと確かな証拠として  
ヴァージニアの首を御覧なさい。  
あの娘は名声を求めました、あなたはあの娘の恥辱を求めたので  
す。  
この腕が娘を打ち殺しました。

アピラス： ああ、呪われた残忍な墮落したやつ、情に悖る酷いやつ。  
自分の腰からでた種を吊いへと突き放ったのだ。  
汝、神々よ、怒りを下し給え、この男の行為に対して呪いを与え  
給え。  
地獄の悪霊どもよ、地獄の番犬どもよ、報いとしてこの男に苦々  
しい思いを与えよ。  
私自身がこいつの末期を見るだろう、こいつを裁いて死罪とす  
る。  
美しいヴァージニアを奪ったと同じ死にこいつの息を止めさせよ  
う。  
忘却の湖の派手な悪鬼どもが彼の霊をひどく苦しめる、  
この男の汚れた労苦には渡し守カロンの助けが必要になるのだ。  
さあ、来い、正義よ、さあ、来い、報いよ、来て私に必要な力を  
貸してくれ。



汝，邪悪な騎士，その同じ短剣で即刻殺さるべし。

ヴァージニアス： ああ、あの娘は純粹で貞潔な乙女として天で命を送るので  
すから、

私はあの娘とともに喜んで死にます、あの娘の短剣で死にます。

アピラス： では来い，正義よ，来い，報いよ，裁きが呼んでいる。

（ここで正義と報い登場，両者語る。）

正義，報い： 我ら二人は汝の命の破滅をもたらすためにここにいる。

正義： ああ，恐ろしい法官，汝，邪悪なる者はいかに無法な生活を送ってきたことか。

汝の全身に滲み渡った罪は汝の魂を沈め，汝の徳はすべて逃げ去った。

汝は貞節で清い人生を求めたのにそれを汚してしまった。

そして正義によって，今，分け与えられた汝の報いがここにある。

報い： 汝の正当な報いは恐ろしき死だ，だから来い，行くぞ。

私は汝の身体をすぐさま死へと運ぶ，そうすれば情欲は死の餌食となる。

汝，悲嘆の騎士，ヴァージニアス，近くへ来て，敵を受け取れ。

そやつをすぐに獄に入れよ，これ以上，悪事をさせるな。

クローディアスは暴虐のゆえに木に吊せ。

ヴァージニアス： ああ，正しき報いよ。神々は誉むべきかな，この日を見るようになるとは。

（ハプハザード登場。）

ハプハザード： おや，あれ，アピラス殿，御機嫌いかがです。

ところで，この策に対する私への報いはどこです。

私は馬に乗り，走り，騒ぎまくったのに，

今，その大骨折りにもかかわらず，悪者にされちまうんですかい。

だってこんなふうに言われたんですぜ，走れ，悪党，クローディアス  
アスを呼んだか，とか，

全力で走れ，ヴァージニアスを見張ってろ，とか，

馬に乗れ，馬鹿，ヴァージニアスは教会にいるのか，とか，

彼女の父親がどこにいるのか見に駆けつけろ，とか，

こっちへ来い，馬鹿，今度はどんな策がある，とか，  
あの美女について何の知らせがあるか，とか。  
こんなふうで大騒ぎして，あっちこっちへ  
可哀そうなハプハザードは毎日毎日行かされた。

(ヴァージニアスとアピアス退場。)

そして今アピアスはヴァージニアスと一緒に真面目な顔して歩いてく。

俺の言うことなんか何も聞いちゃくれない。

これからもあいつの手でそんなふうにかき使われるんだろうか，  
忘却の湖の連中の近くにいた方がまだましだ。

あののらくら，のろまの鴨鼻野郎め。

あいつはセヴィリアで正しい作法を習ったことがなかったんだ。  
法官ってのは紳士になれるかもしれない。え，紳士だって。とんでもない，鯨野郎だよ。

擦り切れちまうのを恐れてズボンに首を巻き付けてるやつくらい  
ご立派だ。

卑怯者，殺し屋，責められても当然の卑しいやつ。

もう，あんなやつには仕えるもんか，悪魔がやつに恥をくれてやりゃあいい。

けど，鼠の足にかけて，それだけじゃおさまらねえ。

どうあっても報酬をもらうぞ，じゃなきゃ後悔する。

報いの旦那のそこへすぐ行こう。

最悪だって駄目だって言われるだけさ。

でも確かにあの人は

多少なりとも俺に報いてくれるくらい正直だってわかってる。

この諺が頭に浮かんだぞ。

マリア様にかけて，パン半分でも全然ないよりましだ，とね。

だからでたらめやって楽しくやろう，どんな偶然が起きたって，  
でたらめやろう，試してみよう。

ようこそ，報いの旦那と公正な正義。

私の仕事ぶりに応じて私にも報いをくださいよ。

だって、ずっとこの間<sup>かん</sup>、希望を持って生きて来たんですから。

報い： では、お前の報いとして、それ、ここに縄がある。

ハプハザード： いやですよ、やめてくださいよ、お二人とも、トルニ  
オンズの聖トマス様にかけて、

お二人の玉ネギ一縄買う気なんかありゃしません。

縄だって、そう言ったんですかい、そんなものよしてくださいよ。

そんなもの二本の鋤を動かしてる男だって嫌がりますよ。

ねえ、待ってくださいよ、お願いですよ。見逃してくださいよ。

縛り首にしてこの暑い夏に酒を飲ませないなんてひどいよ。

正義： 飲ませようと飲ませまいと、救いの手はない。

縛り首こそが、まさに、お前の報いなのだ。

ハプハザード： 俺の運命に降り掛かるのは縛り首以外にないんです  
か。

じゃ俺からのお返しを受けてくれ、それはあんたがたの大きな利  
益になるよ。

俺は報酬くれって言ってるけど、俺の利得のほとんどを  
あんたがたにやらないほど気短かじゃないよ。

俺の働きで得たすべての収入をあんたがたに

あてがい、与え、貸し、譲り、許し、約束しよう。

俺は友達がいがあって、親切で、公平にあんたがたに提供するよ。

あんたがたが俺の遺言執行人だし、相続人だ。

報い： いや、まず、死ぬ覚悟をせよ、

それから、財産を処置しよう、我らが良いと思うようなやり方で。

そうすれば、同じ報いが

お前と同じ意見だった人たちを後悔させるだろう。

正義： いや、待て。ヴァージニアスがやって来る。

静かに、ハプハザード、お前は

罰を受けずして逃れられるほど機転は利かぬ。

（ハプハザードは押し切って逃げようとするが、押さえつけられ  
る。）

報い： そうだ、確かにそんなに好都合にはいかぬぞ。

(ヴァージニアス登場。)

ヴァージニアス： 気高き正義よ、務めを果たして、もう一度やってきました、

アピアスが卑劣にも自分の命を絶ったことを知らせにです。あの男は牢獄に閉じ込められて姿が見えなくなるやいなや、血腥い行為を必死に求めて即座に自殺したのです。

そしてクロードィアスは慈悲を乞うています、アピアスを恐れてやっただけなのです。

おお、裁きよ、彼の命は救ってください、国からは遠ざけても。

正義： 汝の頼みどおり、彼には恩恵を授けよう、しかしこの地からは追放だ。

ここに立っているこの男には死が即刻与えられるようにせよ。

ハプハザード： いや、ヴァージニアス殿、(手を取る)、働きに対して何の価値もないものなど求めません。

縛り首とおっしゃるんですかい。そんなことは思ってもみなかった。

みっともない、待ってくれ、親父の霊にかけて、

おや、これは田舎っぺのトム・ターナーの泣き言みたいだ。

一人縛り首にして、他のみんなは助けるだって。

平均して分を担わせろ、わかりやすい処置が一番いい。

報い： これが我らの処置だ。お前をこのように処置する。

ここからこいつを連れて行け、ヴァージニアス、行って木に掛ける。

ハプハザード： 本当にそんなことを、縄の名にかけて。どこへ俺を連れて行くんですかい。

ヴァージニアス： さあ、自分の死を受けるため急いで行け。

お前を縛り首役人のところへ連れて行こう、すぐに死刑執行だ。

ハプハザード： どうあっても、俺は縛り首なんですかい、ああ、この絹の紐がどんなに意地悪く俺に食い込むかと思うと嫌んなるぜ。

じゃ、来いよ、従兄弟の巾着切り、来い、走れ、急いで俺につい

て来い。

ハプハザードは縛り首にならなくちゃいかん、来い、従者たちについて来な。

（二人退場。）

正義： さて、行こう。我らは肉欲の結末を見た。

報い： そのとおり、報いも正義と同感だ。

（ここで名声が、墓石を持った教訓と記憶とともに登場。ヴァージニアス登場。）

名声： お待ちください、気高き正義よ。お待ちください、報いよ、急がないでください。

私たち三人が遺骸を運んで来ました、地に埋められねばなりません。

教訓： 葬式を見るために、ヴァージニアスを連れて来ました。

博識ある筆に私を助けとして

あの乙女の名の名誉を博識ある詩で書かせましょう。

名声： そして私、名声のラッパでそれを吹きならしましょう。

（ここで記憶が墓石に書きつける。）

記憶： 私、記憶があの乙女の生を思い出させましょう。

あの乙女の死を永遠にいつの時代にも人の口と心の中で君臨させましょう。

正義： そして正義は必ずあの乙女の生に倣う女性たちを助けよう。

報い： そして私、報いは、そのような乙女を苦しませる男たちに罰を与えよう。

名声： では、墓のまわりで歌いましょう、あの乙女の名を称えて。

報い： 名声の声に合わせて、喜んで歌うことにしよう。

#### 納め口上

地上の生が永遠に君臨することは誰にも許されず、  
打ちかかる死がすべての人にこの世は虚しいと認めさせるのですから、

皆様がた、確かに限りある命は消えるのですから、  
ありとあるものをお創りになった方の愛を勝ち得るように努めなさい。  
そしてこの詩人の作品を  
ヴァージニアのような貞潔な生、伴侶への義務、  
妻への愛、伴侶への愛、大切な夫への愛、  
若者の養育の手本にきなさい。それらがみなここに記されています。  
皆様がた、今ここで終わったことを皆様がよく理解してくださると私は疑  
いません。  
それではここでお暇をいただきます。  
我が恵み深き女王を守り給えと、務めとして神に懇願しつつ、  
貴族の方々にも平民にも繁栄した人生をくださいますようにと願います。

(了)

翻訳に際しては、W. C. Hazlitt, ed., *A Select Collection of Old English Plays*, Vol. 4, (London, Reeves and Turner, 1874)を底本とし、P. Happé, ed., *Tudor Interludes* (Penguin Books, 1972)とThe Tudor Facsimile TextsのJ. S. Farmer, ed., *Apilus and Virginia* (New York, AMS, 1970)を適宜参照した。